03 クォード・インテック

顔写真付整理券を迅速発行 行列解消&不正入場を防ぐ!

抽選機「フォーチュン7」





内容を簡単に調整可能、発券スピードが速いため、抽選券・整理券のみならず、簡易な広告の発券機として利用するホールも多いとか（画像はサンプル）

各種設定の変更や調整は、指一本。パソコンに不慣れなスタッフでも行える。整理券に、「本日のラッキーアイテム」などを書き足し、好評を博した導入ホールも

朝の忙しい時間帯に行う抽選作業は、どのホールも手早く、正確に済ませたいもの。

とはいえ、時間は、それほどかけられない…と悩むホールの心強い味方が、クオード・インテックの抽選機「フォーチュン7」だ。

「フォーチュン7」は、発券ボタンを押すことで、番号を表示するタブレット内蔵のカメラが、顔写真を自動で撮影。その顔写真は、抽選券・整理券にプリントされる。

さらに、撮影した写真は、顔写真のみの一括印刷やタブレット上で閲覧可能。入場しようとするユーザーが、抽選を行った本人なのかどうか、簡単に確認できるのだ。

何よりも驚かされるのが、発券スピード。顔写真つきにもかかわらず、次々にプリントされていく。開店前から行列を成すユーザーにストレスを与えない抽選は、再来店につながる、何よりの販売促進策といえよう。

また、印刷内容は自在に調整可能。食堂の新メニューを掲載し、販促につなげているホールもあるとか。店休日、店舗会員の紹介情報など、ユーザーへ告知したい情報を盛り込むのもアリだろう。

同社の吉田昌樹社長は、「大手ホールの関係者から相談されたのが、開発のきっかけ」と語る。

パソコンのシステムやアプリ製作を手掛けていた同社が、抽選機の開発を始めたのは2007年。導入後も、現場からのフィードバックに応えながら、改良した抽選機の高機能ぶりに、周辺ホールから問い合わせが殺到。「フォーチュン・ナンバーズ」の商品化に至ったのだという。

それだけに、フォーチュンシリーズには、現場が「こんな機能があったら」と思う機能を、多彩に用意。ハイエンド機である「フォーチュン7」に至っては、吉田社長が「追加すべき機能が思いつかない」と言うほど。

1台で、2列の抽選ができ、画面を分割すれば、パチンコとパチスロの同時処理が可能。5台まで連動させられるので、最大10列の発券作業がこなせる。さらに、機種ごとの抽選や翌日以降（最大3日分）の整理券の発行、抽選途中での発行券数の増加もお手の物。モバイル運用も可能だ。

高機能・多機能ながら、操作が簡単なのも「フォーチュン7」の特長。実際、利用法に関する問い合わせは、ほとんどないとか。

昨年7月の販売開始から、約150台を導入。シリーズ累計で約2500台が導入され、シリーズ旧機と「フォーチュン7」との入れ替えも進んでいる（旧機の下取りも相談可）というから、導入ホールの信頼度がうかがえる。

アイデア次第で、販促ツールとしても威力を発揮する「フォーチュン7」。人手不足、行列の解消に困っているホールは、一度試してみてはどうだろうか。